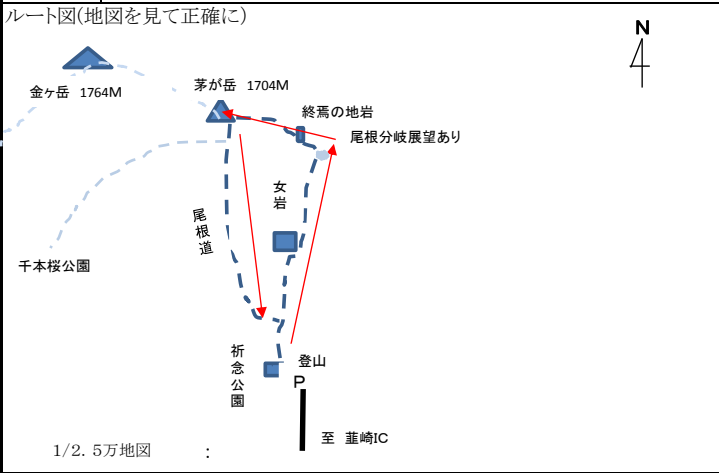


縦の木会(デンソー山岳部OB会)

4月度 例会 山行 報告書		報告者;	佐溝直彦	参加 メンバー	CL;油井武 SL;佐溝直彦 青山武 竹内幹雄
下見		報告日;	4月22日		
山城	奥秩父山地南部	山行日	2016/4/16 (日帰り)		
山名	茅が岳1704M				
山行目的	5月例会下見	コースタイム			

配布先  
参加者;  
PC又は  
郵送にて  
原紙;  
会事務局  
HP作成;  
白井



4:55	刈谷年金基金会館発
↓	～中央道で葦崎IC～
8:30	深田久弥祈念公園P着
9:00	スタート
10:08	女岩
11:02	稜線分岐～終焉の地
11:32	茅が岳頂上
12:02	下山スタート ～尾根道ルートで
13:36	登山口へ下山
↓	祈念公園の記念碑確認後白川温泉に向かう
↓	
15:25	葦崎IC
18:50	豊田南IC
19:10	刈谷年金基金会館着

<山行記録>

5月例会の申込者が多いので、SLは多い方がよいと考えて青山さんと竹内さんに協力して貰い4人で下見に行く事にした。日帰りの予定で刈谷を早発ちし中央道を順調に走り、登山口に8時半着、既に50台位駐車しており間もなく満車になりそうだ。刈谷5時発が正解と確認、トイレは有るが少ないので途中で済ませてくれるのがよい。記念碑の確認は下山後として登山開始、緩やかで歩き易い登山道、木々は未だ芽吹き始めである。例会時は新緑の気分良い山道になりそう。一時間余で女岩に着くが手前にテープが張ってあり立ち入れないし水も採れない。休んでいる人が多く落石の危険がありそうな地形であり、休憩場所は少し手前にするのがよいと思われた。ここからは急な登りになるので腹ごしらえと水分補給し気持ちのスイッチを入れて岩まじりの急登の道にとりつく。登山者が下から続いており落石しない様に慎重にゆっくりと進む。やがて落ち葉に覆われた道はジグザグとなり見上げるとずっと上まで続いている。我慢坂だ。まもなく稜線に踊り出る、直ぐ右手に岩の小ピークがあり、ここからは正面に金峰山や瑞牆山の展望があり一息入れたい所、但し付近は狭いので座りこまず短時間に行動食などとる事が求められる。稜線の分岐を左に折れて山頂に向かう。岩もあり段差もある狭い尾根の登りとなるのでストックが邪魔になる場面あり。直ぐに終焉の地の碑がひっそりと建っている所に着く。合掌して通過、ひと頑張りようやく山頂に着いた。大勢の人が寛いでいるが意外と熟年者より若い人が多い。眺望は金ヶ岳の肩に八ヶ岳連峰が、南方には南アが春霞の中に望めるが富士は見えないので次回のお楽しみ。下山ルートは尾根道を利用する。まばらな樹林のある明るい尾根道は急な土のジグザグ道でストックが活躍する場所である。ついペースが上がり足に負担が掛かったらしく青さんと私が予防的に芍薬甘草湯を服用したが効果があり下山まで問題なかった。中腹まで下り、切り拓かれた防火線につくと傾斜も緩くなり小休止には適地、やがて林道に出会い左折すると朝通った登山道に戻る。30分の散策で登山口に到着。祈念公園は小高い丘の上で明日の深田祭の準備のテントが張ってある。「百の頂きに百の喜びあり」の御影石の碑には正面に聳える茅が岳の頂が写り込んでいるのがニクイ。

茅が岳は上部の登山道が狭く、大パーティーでは行動しづらいし他の登山者に迷惑になるので数名の班に分かれての行動がよいと感じた。

<フリースペース>

体力度は鈴鹿の藤原並みかな(佐溝)と感じたがこの山は右の写真のように頂上付近が尖っているのが特徴的である。

写真は白川温泉より望む茅が岳(右)

確認	<リーダー所見> 永年5月の例会テーマは「残雪の山を訪ねる」であったが今年
(リーダー)	は「伝説」を訪ねる山となるような気がする。登りは檜の葉が異様に沢山積もった
油井武	フカフカ感豊かな道を行くとまさに深淵と繋がって連想を誘う。深田久弥終焉の碑
4月18日	辺りから血中酸素濃度が異常に低い事に気付き他の二人に歩きながら測定して
作成	貰うと両人も88で標高1600Mの割に不思議、久弥が68歳と若く元気なのにナゼ
(報告者)	脳出血で急逝したのか謎が残った。例会では早晩の出発、長時間ドライブに
佐溝直彦	起因するエコノミー症候群対策と高齢者の高所登山技術の応用を全員で共有出来る
4月17日	様に何か工夫したい。